



2026. 6 No. 123



- ・低コスト再造林を目指したカラマツ天然更新の検証
(森林技術・支援センター)
- ・小清水原生花園風景回復対策事業について
(網走南部森林管理署)
- ・こんにちは森林官です！(枝幸森林事務所)
- ・えりも風景林(日高南部森林管理署)

林野庁



北海道森林管理局

低コスト再造林を目指した カラマツ天然更新の検証

森林整備部 森林技術・支援センター

【はじめに】

北海道国有林の約2割を占める針葉樹人工林は、現在、本格的な利用期を迎えつつあり、主伐の対象となる森林が増えています。

国有林野の管理経営に関する基本計画では、森林生態系全般に配慮しながら公益的機能の向上を図るため、天然更新などの施業技術を活用した複層林化が位置づけられています。

これを受け、北海道森林管理局でも人工林の齢級構成を平準化するため、多段林への誘導が推進されています。

一方で、主伐後に植林を行う再造林には多大なコストがかかるため、現地の状況に応じた低コストの更新方法が求められています。

北海道の天然林施業では、更新を妨げるササ類の地下茎を取り除き、種子の発芽や定着を促す「地がき」が広く実施されており、人工林の主伐後でも有効な天然更新手法として期待されています。



平成27年 伐採前のカラマツ人工林

このような背景から、当センターでは平成27年から30年に、カラマツ人工林の主伐（帯状伐採）跡地で地がきを実施し、再造林コストの縮減と、樹齢や樹高が異なるカラマツの複層林への誘導を目指して、天然更新技術の開発に取り組んできました。

今回は地がきから10年を迎えた現在の更新状況と、今後の施業への展開について紹介します。

【試験地の概要】

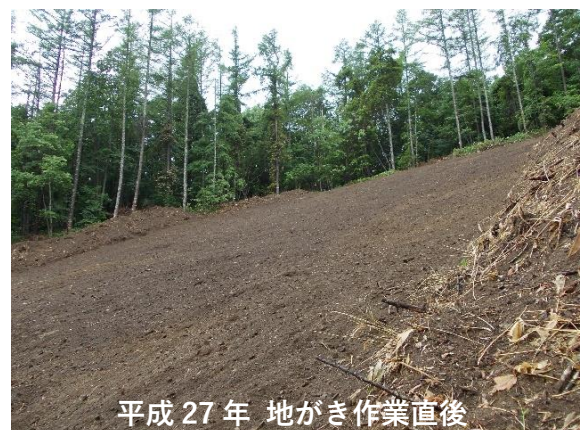
試験地は、上川南部森林管理署管内の南富良野町にある南東向きの斜面に設定しました。

本試験地は、昭和34年に植栽されたカラマツ人工林で、平成27年に林齢56年で主伐を行い、幅40mの帯状に伐採しました。その後、天然更新を促すための補助作業として、大型機械を用いた地がきを実施しています。



平成27年 伐採後の地がき作業中

地がきではバックホウのバケットを用い、表層土壌を約20~30cmの深さで除去し、下層土壌を露出させました。取り除いた土壌は、光が届きにくい林縁部に集積しました。



平成27年 地がき作業直後

【確実性の向上】

●林分状況

帯状伐採の幅を 40m とし、地がき面を南斜面に配置することで、カラマツの成長に必要な光環境が確保されました。さらに、間伐によって幹曲がり等の形質の悪い木を除去し、通直で樹冠の発達した母樹を残すことが、良質な天然更新に適した条件と考えられます。

●種子供給の確保

カラマツは樹冠全体に種子をつける特性があるため、片枝や枯れ上がりが少なく、健全な母樹の存在が重要です。そのため、間伐時の選木が重要となります。

また、樹皮の一部を剥ぎ取る環状剥皮という方法によって、種子の生産を促すことも有効とされています。



●地がき処理

地がきによってササの地下茎を確実に除去することで、ササの再生や野鼠の生育を抑制し、更新木の食害を受けるリスクの低減につながると考えられます。



【今後の展開】

カラマツの天然更新は、樹種構成や更新密度の制御が難しいという課題はあるものの、適切な条

件設定により、低コストかつ確実な更新が可能であると考えられます。

今後は、高密度に更新したカラマツや広葉樹の保育方法を検討するとともに、平坦地や北向き斜面での実証により、地がきによる天然更新における適用条件の検証を進めていきます。



【終わりに】

森林技術・支援センターでは、地域ごとの森林の特性に応じた多様な森林づくりへの技術開発と支援を行っています。

これからも試験研究機関などと連携しながら、民有林への普及も視野に入れた技術の開発を進めていきます。

これまで取り組んできた技術開発の成果等については、森林技術・支援センターのホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

[\(https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/gizyutu_c/\)](https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/gizyutu_c/)



用語解説

※「樹高階」

木の高さ（樹高）を一定の高さごとに分けて整理したものです。高さごとに分けて見ることによって、木がどの程度成長しているか、時間の経過とともに小さい木が大きい木のグループへ移っているかなどを判断することができます。

各署の取組

小清水原生花園の風景回復対策事業について

網走南部森林管理署

【はじめに】

網走南部森林管理署は、オホーツク総合振興局管内南東部に位置し、東は知床半島、南は阿寒湖・屈斜路湖・摩周湖に接する7市町にまたがる国有林約135.8千haを管理しています。

管内国有林には、知床国立公園、阿寒摩周国立公園、網走国定公園が含まれ、羅臼岳、斜里岳、藻琴山、小清水原生花園、神の子池、津別峠、美幌峠、知床峠など、風光明媚な観光地が数多くあります。また、知床半島は世界自然遺産にも登録されています。

【網走国定公園と小清水原生花園】

網走国定公園は、1950年に道立公園に指定され、その後自然公園法制定に伴って、1958年に国定公園に指定されました。大小7つの湖沼と砂丘、原生花園、丘陵からなる自然豊かな地域です。その中でも小清水原生花園はオホーツク海と濤沸湖に挟まれた約8kmにわたる細長い砂丘上に形成された国有林で、天然の花畑が広がっています。春から秋にかけてはハマナスやエゾスカシユリなど多くの植物が咲き誇っています。

遠くには藻琴山や知床連山を望むことができるほか、オホーツク海と濤沸湖に挟まれた中をJR釧網本線が走るという風景も特徴となっています。



エゾスカシユリ



原生花園を走るJR釧網本線

【風景回復対策事業】

小清水原生花園では近年、野火の発生や家畜放牧等による攪乱の減少、外来種の侵入などの影響により、美しい花々が衰退傾向にあります。このため、小清水町、オホーツク総合振興局、網走南部森林管理署の3者が連携し、人為的な火入れを実施することで、かつての景観の回復を図る「風景回復対策事業」に取り組んでいます。本事業は、対象区域を4ブロックに分け、毎年1か所ずつ火入れを実施しています。

【今年度の火入れ】

今年度は5月13日、網走側1.5kmの区間において火入れを行いました。

前日まで気温が高く、原生花園は完全



火入れの様子

乾燥しており、近年においては最高のコンディションの中での作業となりました。当日は朝4時30分、現地駐車場に約60名が集まり、国道及びJRを一時通行止めとしたうえで、1.5kmを10区画に分けて実施しました。森林管理署は網走側の3区画を担当し、線路と国道の間で火入れを行い残火処理を実施した後、線路を渡り、海側に向けて火入れを行い、同様に残火処理を行いました。

その後は14日午前5時まで、3者で交代しながら巡視を行いました。このような火入れを毎年継続することで、今後も小清水原生花園に美しい花々が咲き誇る風景が守られていきます。

こんにちは 森林官です!

宗谷署 枝幸森林事務所
地域統括森林官 門脇 恵一

【管内の概要】

枝幸森林事務所は、宗谷管内南部のオホーツク海に面した枝幸町に所在しています。町内の国有林は、枝幸森林事務所が約 17,000ha、歌登森林事務所が約 30,000ha を担当し、合計約 47,000ha が管理されています。



防風保安林の様子

枝幸町は日本一の漁獲量を誇る毛ガニをはじめ、ホタテなどの漁業と酪農が盛んな地域です。

また、5月9日には枝幸町有林において第76回北海道植樹祭が開催され、町内外から約700名が参加し、宗谷森林管理署からも15名が植樹スタッフとして参加しました。

【森林事務所の業務】

枝幸森林事務所の主な業務は、林道及び森林の巡視、民有地との境界管理、森林の現況把握のための地況林況調査、造林や生産など各種請負事業の監督業務など、現場業務が中心です。



製品生産（伐倒）の様子

また、枝幸漁業協同組合と協定を締結し、国有林において毎年植樹祭を実施しています。



お魚を増やす植樹祭の様子

管内の海岸沿いには防風保安林が整備されていますが、近年はヒグマの出没が確認されています。そこで安全確保のため、学校に隣接する箇所については町からの要望を受け、草刈りを実施しています。



学校に隣接している防風保安林の様子

【終わりに】

宗谷地域は強風や冬期の寒冷、積雪など気象条件が非常に厳しく、森林づくりが大変な地域ですが、国民の財産である国有林を適切に管理するとともに、地域との関わりを大切にしながら、今後も日々の業務に取り組んでいきます。

えりも風景林

日高南部森林管理署

【えりも風景林の特徴】

えりも町にある「えりも風景林」はアイヌ語で「エンルム」突き出た頭を意味する丘陵地形となっています。かつて、えりも地区の海岸林は、明治時代の開拓に伴う森林の伐採や家畜の放牧により荒廃し砂漠化が進んだため、地元の町や住民から緑化の要望が高まり、昭和28年に緑化事業が開始され、地元住民の協力を得つつ行われてきました。えりも地区は寒さや風の強さに加え、霧の発生が多いため日照が不足し、植物の生育には極めて厳しい環境であるため、緑化事業は困難を伴いました。しかし、海岸に打ち上げられたゴタ（雑海草）を、地表の乾燥防止や肥料として活用するなど、さまざまな試行錯誤が重ねられてきた結果、事業開始から70年以上が経ち、現在は草本類や木本類が生育する森林に覆われています。

えりも国有林治山事業の詳細は、下記のホームページでご覧いただけます（日本語）。

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/hidakananbu/conservation.html>

【気候等】

えりも地区は、年平均風速8.3m/sと、風速10m/s以上の日が年間260日以上あり、屈指の強風地帯です。また、年間の濃霧発生日数は100日を超え、5月から8月の月平均濃霧発生日数は約20日とされています。



えりも管理棟（百人浜）

【楽しみ方】

百人浜にある展望台や地上 13m の管理棟からは、緑化事業により砂漠状態から蘇った森林の様子が一望でき、遊歩道は木道や木質チップが敷かれていて、大変歩きやすくなっています。

また、えりも岬を中心とする一帯の国有林全域が日高山脈襟裳十勝国立公園に指定されており、豪壮な岬の断崖と岩礁が連なっています。さらに、周辺には日高耶馬溪や黄金道路、悲恋沼など、多くの景勝地があります。

みどり館（林業総合センター）では、当時の手作り道具の展示、パネルや DVD により緑化の歴史を紹介しています。

管理棟から百人浜

百人浜オートキャンプ場

遊歩道とキタキツネ

風の館

《百人浜までのアクセス》

○新千歳空港→道央自動車道→

日高自動車道：新冠IC→

えりも風景林（180km／3時間 20分）

・海岸線を眺めながらのドライブがお勧めです。



各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

「北海道・木育フェスタ2026開会式」及び「緑の募金」出発式



【企画課】

4月25日、北海道庁にて「北海道・木育（もくいく）フェスタ」の開会式が開催され、協力団体等から約230名が参加しました。続いて、「緑の募金」出発式が行われ、協力団体を代表してボーイスカウト、ガールスカウトの皆さんが、北海道の森づくりに向けた力強い決意を述べた後、各募金会場へ出発しました。札幌駅南口広場では、多くの通行者から温かい協力が寄せられ、春期街頭募金は順調な滑り出しとなりました。

国民の森林づくり感謝状の贈呈



【駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター】

5月16日、七飯町大沼にある吉野山国有林において森林植生観察会を開催しました。観察会に先立ち、木村マサ子氏に対し「国民の森林づくり感謝状」を贈呈しました。大沼自然豊かな森づくり協議会のメンバーや一般参加者などが見守る中、和やかな雰囲気で行われ、式後には参加者全員で記念撮影を行いました。その後、観察会を開催し、講師の木村氏からは花の特徴や名称の由来について丁寧な説明がありました。

硫黄山（アトサヌプリ）山開きに向けた調査登山に参加しました



【根釧西部森林管理署】

5月7日、てしかがえこまち推進協議会主催の硫黄山の登山ルートへの安全確認、危険箇所の把握、避難経路確認を行う調査登山に参加しました。硫黄山は現在、エコツーリズム推進法に基づく立ち入り制限区域に指定されていますが、弟子屈町の認定ガイド同行の「アトサヌプリトレッキングツアー」は特別に立ち入りが許可されています。ツアーは5月中旬から開始されており、今年も安心して安全なツアーが実施されることを願っています。

「シベチャリ武四郎まつり」に参加



【日高南部森林管理署】

5月16日、新ひだか町アイヌ協会が主催する「シベチャリ武四郎まつり」が開催され、町内外から約50名が参加しました。新ひだか町アイヌ協会の皆さんによるイチャルパ（アイヌ語で「文化保存に貢献した先人・先祖への供養」を意味する。）が行われ、最後に屋外で古式舞踊が披露されました。今後もアイヌ協会をはじめとする関係者の皆様と連携しながら、アイヌ文化への理解及び文化振興に協力していきます。

広報 「北の森林 国有林」6月号

発行 林野庁北海道森林管理局

編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の表紙 白藤の滝】

今月の表紙は、足寄町にある白藤の滝です。足寄町から阿寒湖に向かう途中にあり、雌阿寒岳から流れてくる白水川にある滝で、落差20メートルにもなります。



今月の表紙